

お酒のための踊り

沖縄独特のエイサーは「民俗舞踊」と呼ばれていますが、実際には舞踊、歌、音楽、そして色鮮やかな衣装のエネルギッシュな総合芸術です。エイサー団は、踊ったり音楽を演奏したりしながら通りを練り歩きます。その起源は仏教念仏と先祖に捧げる儀式にあると考えられています。時とともにエイサーは人気のあるパフォーマンスアートへと発展しました。最大規模のエイサー大会は何日にもわたって開催され、数十万人の観客が押し寄せます。

何世紀にもわたって、エイサーは人々がそれぞれの先祖を招いて慰霊するお盆という夏の行事の一環として踊られてきました。伝統的には、少人数の集団が通りを歌い踊りながら順番に隣近所を訪ねていました。多くの場合、一行のうちの2人は各家庭からお礼として少量の泡盛を受け取るための甕を運んでおり、一行は帰路につく際にその泡盛を飲みました。

現在沖縄には数百のエイサー団があります。所属しているのは踊り手、歌い手、三線（バンジョーに似た沖縄の楽器）奏者、大小様々の太鼓を叩く奏者、そして旗持ちです。かつては、男性だけが踊っていましたが、近年では女性も踊りに参加します。

1956年、沖縄市で沖縄全島エイサーまつりの第1回が開催されました。長年の間に、この毎年恒例の大会には、次第により多くの踊り手からなるエイサー団が参加するようになり、衣装と振り付けも凝ったものになっていきました。1980年代に発展した「創作エイサー」は、しばしば現代のポップソングに合わせて踊られます。

沖縄県外に移り住んだ人々、特に1920年代にハワイに移住した人々や、第二次世界大戦後に日本本土に移住した人々は、移住先にエイサーの伝統をもたらしました。現在エイサーは、多くの国で踊られています。